

ラースリーラー マーガレット・シンプソンによる再話

序章

シュリー・クリシュナ、ゴーピーたち、そしてラースリーラーの物語は、何世紀にもわたってインドで語られてきました。それは、『ハリヴァムシャ』、『ヴィシュヌ・プラーナ』、『バーガヴァタ・プラーナ』、『ギータゴーヴィンダ』といった数々の偉大な教典に登場しています。これらの最古のものは部分的には4世紀までさかのぼります。これらの教典では、シュリー・クリシュナは、宇宙を維持する力であるヴィシュヌ神の化身として、正義すなわちダルマが危険にさらされている時にはいつでも出現する存在として描かれています。

シュリー・クリシュナは、首都マトゥラーにあるヤードヴ王朝の王家に生まれました。その頃、彼の両親は、国王を追放した暴君のおじ、カムサに捕らわれていました。クリシュナが生まれた真夜中、看守は深い眠りに落ち、監獄の扉が勢いよく開きました。クリシュナの父、ヴァースデーヴァは、生まれたばかりの赤ん坊をかごに入れ、カムサから守るために監獄から運び出しました。ヴァースデーヴァは、かごを頭の上に持ち上げて、胸まであるヤムナー川の激流を渡りました。そして、幼子を対岸の小さな村ゴークルに連れて行きました。ゴークルの村で赤ん坊のクリシュナは、牛飼いのヤショーダとナンダの一家に愛情深く育てられました。クリシュナは他の子どもたちと一緒に牛の世話をしたり、冷たい川で水浴びしたり、木の枝にぶら下がったりして大きくなりました。

クリシュナはことの外、明るい子として知られていましたが、皆の中で成長していったほとんどの過程で、ヴリンダーヴァンの人々は彼の神聖な本質にほんのわずかしき気づきませんでした。なぜなら、シュリー・クリシュナは、マーヤー、すなわち幻想の力を呼び起こすことができ、彼の真実の姿を隠していたからです。

ラースリーラーは、彼が自分の神性を明らかにした時の物語です。「ラース」とは、クリシュナ神がゴーピーたちと一緒に踊った時に作ったダンスを指します。それはグジャラート州の伝統的な民族舞踊であるラース・ガルバーとして思い起こされてきました。「リーラー」は、「戯れ」、または「ゲーム」の意味です。ですから、「ラースリーラー」の意味は、「踊りの戯れ」で、「神の愛の踊り」としても知られます。ラースリーラーの物語はあらゆる探究者たちに、神の本質と、人間の精神的融合への切望について語っています。



© 2023 SYDA Foundation. 著作権所有。